修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　鴻田好通
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
1－17－1ＮＫ第1ビル
☎03（5259）0631

財団法人全国修学旅行研究協会（全修協）は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財団である。

大阪市立晴明丘南小学校

関東地区公立中学校修学旅行委員会各学校より

JR連合体輸送に関わる安全確保と継送臨への改善要望が高まる。

関東地区公立中学校修学旅行委員会（会長：高梨眞佐岐氏、略称：関修委）の本年度第三回研究協議会が去る十月二二日（金）東京文化会館で開催された。

今回の主な協議事項は、来る十一月二六日（金）栃木県宇都宮市で開催される「第三五回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会」の開催運営についての打ち合わせと平成13年度実施分の関修委連合体ＪＲ計画輸送についての協議がなされた。

更に、今回はＪＲ東日本並びにＪＲ東海の計画輸送関係者を招き、関修委運営委員とで、関修委連合体ＪＲ計画輸送についての意見交換会を持った。

関修委修学旅行列車出発式

新幹線利用による修学旅行列車の運転は、修学旅行の「安全性向上・教育性の充実・経済性の追求」の基盤となるものであり、全国各地にある修学旅行委員会における取組事業も、そのほとんどが連合体計画輸送を委員会業務の柱と位置付け、永年にわたり取り組んできたものである。

昨今、山陽新幹線で多発しているトンネル内コンクリート落下事故は、安全第一をモットーとする修学旅行の実施にとって、大きな不安要因であり、各学校からＪＲ各社に対し、従来にも増して安全確保への取り組み要請があった。

又、関修委に加盟している学校の内、大多数の学校は新幹線修学旅行列車に乗降車するための接続輸送にＪＲ東日本の新幹線継送在来臨時列車（略称：継送臨）又は、貸切バスを利用している。

ＪＲ連合体計画輸送には、これら継送臨に乗車する学校の組合せ・調整・列車の運行も含まれており、各学校にとって生徒の安全管理の見地から常に話題となっており、この件に対する改善要望が多数でた。

平成十三年度実施分の関修委連合体輸送は既に大筋決定しており、メインの東海道新幹線については、十四年度以降の要望として、新学年スタート早々及び五月連休明け早々の出発をずらせないかとか、秋口での新規連合体列車設定への条件について討議された。

継送臨に関わる学校側からの要望として次のような声がが高かった。

・継送臨に東京駅に直接繋がる東北・上越新幹線利用の設定してほしい。

・臨時列車とはいえ、列車の所要時間を短縮してほしい。

ＪＲ東日本からの回答は概ね次のようであった。

・継送臨の運転時間帯が往復ともラッシュ時間帯に掛かり、既に通勤客で大変混雑しているが、平成十四年度を目途に、在来線の車両更新、東北・上越新幹線の利用を検討していきたいと答えた。

あいさつする　ＪＲ東日本金子氏

又、連合体申し込みの時期について、現在の実施十五ケ月程前の二月中旬締め切りを旅行会社経由では、その時期までに旅館を含む取り扱い旅行会社を決定せねばならず、学校としては、もっとじっくり検討する時間が欲しいとの声も合った。

東海道新幹線線は、本年秋季よりこだま型車両（〇一系）が引退し、車両に対する問題は大方解決したようで、今後は、安全確保と修学旅行連合体継送臨列車の運転時期及び継送臨に対する改善要望が引き続き高まることと思われる。

―主張―

一校一舘を考える視点

修学旅行の計画・実施にあたって宿舎の選択を重視する学校は多い。それは、旅館・宿舎を修学旅行という学校外教育活動の拠点と考えるからである。一日の行動を終えて、その反省と明日へ再確認をする場としての学習的な環境が求められる。また、楽しい充実した旅行の条件としての快適性（豪華・贅沢とは違った意味で）は宿舎に負うところが大きいからであろう。これらを含めて、学校は、他の学校・生徒とのトラブルを未然に防ぐということから、いわゆる「一校一舘」という形を求めてきた。この「一校一舘」は、本来「全館貸し切り」とは異なるが、混同され、他のいわゆる一般客とのトラブルがあったということも聞く。ここには、学校側と旅行業者、宿舎側との間に用語の解釈の違いがあるという問題がある。改めて整理すると、「一校一館」とはその宿舎を利用する学校はその一校に限られるが、一般客の利用もあるということである。「全館貸し切り」とは、宿舎の建物・施設全てを貸し切る場合と、特定の場所（例えば、宴会・パーティなど）は除くとし、そこへの一般客の出入りがあるという場合がある。従って、これらの用語についての学校を始め旅行業者、宿舎など関係者の共通認識とともに、特に学校側は一校一館、全館貸し切り等の表現を鵜呑みにせず、宿舎の利用条件の事前の確認が不可欠であろう。しかし、現実の問題として、修学旅行が集中する一定期間の中で、宿舎が、数の上で学校に対応しきれるかどうかということがある。少子化時代の中で学校の小規模化が進む。学校小規模化は連合体輸送の一編成の学校数の増加ともからみ、宿舎の絶対数は不足する。仮に一校一舘あるいは全館貸切りとなった場合、宿舎の宿泊定員と学校規模とのずれは双方にとってかなりの負担となろう。就中、宿泊費はかなり割高なものとなることが推測される。それを望む学校は経済性の適正化をどう図るかという問題にゆきあたる。こうした様々な条件の中で望まれるのは、学校規模に見合う宿泊定員の宿舎の確保であろう。それが全館貸し切りであれば理想だが、多くは一校一舘という形に行き着くのではなかろうか。こうした現実を踏まえ、これからの修学旅行の宿舎を考える場合、一校一舘あるいは全館貸切りにこだわらず、ホテル利用も含めて新しい方向を考える必要がある。例えば、集団や社会の一員、自主的、実践的な態度、人間としての生き方の自覚を深めるなど特別活動の目標を引合いに出すまでもないが、宿舎での人々の出会いやふれあいの中にそれらのことを積極的に求めていくことである。宿舎という特定の空間の中での過ごし方や人々とのふれあいは修学旅行ならではの特色ある教育的場面ではなかろうか。

また、他校との同宿の場合でも、接触を避けるというよりは、相互に、日程上の妨げとなることのない配慮や迷惑をかけないことを基本とした過ごし方を指導したりあるいは積極的に交流をしていく機会や場としてとらえることも必要であろう。例えば、インターネットを利用し、修学旅行の取組みやコース、学校・地域の特色など双方の情報を交流しあうなど事前の展開もあろうし、宿舎での交流のプログラムを組むことも考えられよう。こうしたことは、修学旅行における学習の場・内容の拡大であり、より充実した豊かな修学旅行への新たな展開が期待される。

風紋

長かった残暑も去り爽涼の秋気濃い朝、近くの公園を散策していて青桐の大きな葉がまさに落ちなんとしている風情に目を引かれ「桐一葉落ちて天下の秋を知る」という句がふと思い浮かんだ。これは前二世紀末・中国漢の准南子という書物の一文で為政者の先見性を説く警句である。わが国では「桐の葉のうれ吹く風の夕まぐれそぞや身にしむ秋は来にけり・藤原定家」のように、鎌倉初期ごろから桐の葉の散り敷くさまやその風音に秋を探る風雅が伝えられていた▼仲秋のころには柳が風物詩として登場する。柳の葉は細く弱々しくそれが黄ばんで散るさまは、ぽろぽろとこぼれ落ちる風情であり、大きく部厚い桐の葉がさわさわと時にからからと音立てて散るのとはまことに対照的である。「柳散るや風に後れて二葉三葉・鈴木花蓑」「散り散らず秋にはあへぬ柳かな・宗長」▼晩秋肌寒さを覚えるころになると銀杏の葉が散り敷く。東京では神宮外苑、大阪なら御堂筋あたりの銀杏（イチョウ）並木の舗道が黄金色の絨毯を敷きつめたように美しい落ち葉で埋まり、木漏れ日にまぶしく照りかえる。ふと見上げる梢には、散り残りの葉がウコン色に輝いてなお錦を思わせている。「銀杏散るまっただなかに法科あり・山口青邨」とは東京駿河台あたりの風景か。「銀杏散る兄が走れば妹も・安住敦」落ち葉を追ってたわむれる幼な児のほほえましいひとコマである。（前）

今月号の風紋は、前月掲載分が執筆者の校閲を経ず、校正ミスによる文意不適切の個所が多数ありましたので、季節の移ろいに合うよう内容を改め補作して再掲載しました。

教育の窓

移行期に臨んで

東京農業大学教授
前文部省初等・中等教育局主任視学官
渡部邦雄

一　産みの苦しみ

新学習指導要領の移行期まであと数ヵ月になった。

各学校ではその準備のために、教務担当の先生を中心におおわらわであろう。

各地から「生きる力」の育成を目指したさまざまな取り組み事例が次々と伝えられている。

自ら学び、自ら考える力を育成するために、新設の「総合的な学習の時間」における体験的な学習、問題解決的な学習の充実の方策、各教科等における知的好奇心や探究心、論理的な思考力や表現力の育成の工夫例などである。

さらには、教育内容の基礎・基本についての確実な定着を図るとともに、一人一人の子どもの個性を生かす教育を展開するために、ゆとりある教育活動の推進、課題学習の取り入れ、選択学習の幅の一層の拡大などを目指した取り組みの例などである。

中でも、関心が高いのは、今次の学習指導要領の目玉ともなっている総合的な学習の時間の取り扱いであろう。移行期を迎えて、今後どのように実施、あるいは準備を進めていけばよいのか、各学校で産みの苦しみをされているのではないだろうか。

この総合的な学習の時間は、移行期間中であっても、各学校ではその実態などから見て、取り組みが可能であれば、この時間を加えて教育課程を編成することが可能となった。

新教育課程の改善の趣旨を少しでも早く実現するためには、準備の整った所から、実施することが望ましいからである。

実施する学校、検討中の学校のいずれであっても、全教員が、今回新たに総合的な学習の時間が設けられた理由、背景、創設の趣旨、教育的意義などについて、何度も互いに確認をし合うことが必要である。

なぜなら、総合的な学習の時間が話題にあがるとき、多くの学校では、課題に何を取り上げるか（実際には学習指導要領の例示にある国際理解、情報、環境、健康・福祉などに関連した課題が中心）、どのような指導形態をとったらよいか、指導体制をどうするかなど、授業の内容論、方法論が先行しているように思えるからである。

指導計画作成上、その気持ちはよく分かるが、大切なのは、総合的な学習の時間が何のために設定されたのか、そのねらい・目的が何であるのかについての理解が第一段階であろう。その次のステップとして、ねらいの具体化のために、自分の学校では何をどうすればよいのかが続くのではないのか。具体的な方法論が先にあり、目的論が後追いするようではいかがなものであろうか。

また、他校の様子伺いではなく、自校の創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを推進することが、今次の改訂のねらいの一つであることも想起したいものである。

二　学校行事との関係

最近各学校から聞こえてくる声に、総合的な学習の時間を、学校行事（旅行・集団宿泊的行事など）を行うことにより、それの読み替えができるのではないかとの考えがある。理由はいろいろと付けられているのだが、本音は別のところにあるように思えてならない。

つまり、現行の教育活動で代替できるものなら、新しい教育活動を無理してやらずに済ませたいということであろう。

このことは例えば、社会科と特別活動が類似した学習活動を展開するからといっても、同一の教科等として代替できるものではない。

両者はそれぞれ固有のねらいをもっており、名称をはじめ内容、方法等も同一ではない。総合的な学習の時間と学校行事についても同様であり、両者の教育的意義・ねらいを確認すべきである。学校行事とどこが類似しており、どこが違うのか、具体的な事例を示して、全教師の納得を得ておく必要がある。

学校行事は、全校又は学年単位で行われ、学校生活に秩序と変化をもたらし、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動である。

本来、特別活動は、望ましい集団活動を通して、個性、主体性、社会性、人間性などを豊かに育む教育活動であり、生徒の全人的成長をねらっている。総合的な学習と特別活動とは、学習内容や学習活動に関連する部分が少なくないが、「固有のねらい」を大切にするとともに、相互補完的、相互還流的な関係のあり方を探求することが必要であろう。

修学旅行は今

班別自主学習に「修学旅行ナビ」登場

今や、修学旅行に班別自主学習は当たり前となった。

班別自主学習の実施率を学校種別で見てみると、公立高校では凡そ七〇％、中学校では凡そ八五％と言われており、実施地域は、北から札幌・函館・東京・横浜・鎌倉・京都・奈良・大阪・神戸・広島・萩・長崎・熊本・鹿児島・沖縄等修学旅行先のしてのほとんどの地域で実施されている。

班別自主学習実施に際して、学校側の最大の課題は生徒の安全確保、すなわち、各班別グループが計画通り安全に自主学習しているか　である。

学校のニーズは、生徒が道に迷わないよう、当初の予定（コース・時間）通り行動出来るよう、先生側からも生徒の行動がチェック出来ないか、緊急時に相互連絡が簡単に出来ないか等がある。

その結果、十数年前に先ず登場したのが「ポケベル」であった。それが、通信技術の進歩に伴い「携帯電話」となり、今では「携帯ナビゲーション」まで発展してきた。

◆班別自主学習で使われる通信機器の特徴

1．ポケベル
・先生から生徒への呼び出し信号を伝える。
・簡単なメッセージが送信出来る。
・レンタル料は安価。

2．携帯電話・PHS
・先生、生徒間の相互通話が出来る。
生徒側には受信機能のみのものもある。
・レンタル料は安価。

3．PHS位置確認
・PHSと本部設置のパソコンをネット化。
・生徒の現在位置が本部のパソコンに表示される。
パソコン1台でPHS三〇～一〇〇台位迄可能
・先生、生徒間の相互通話が出来る。
生徒側には受信機能のみのものもある。
・レンタル料は一日当たり
パソコン　一台　五千円程度
PHS（受信機能のみ）
一台　七百円～千二百円程度
PHS（送受信可能）
一台　千五百円～二千円程度

4．携帯ナビゲーション
・生徒自身の現在位置、目的地との位置関係等が携帯ナビの画面に表示出来る。
・先生の携帯ナビに生徒の現在位置が表示できる。
先生が本部に常駐せずに、自由に行動出来る。
・先生、生徒間の相互通話が出来る。
・携帯ナビにデジタルカメラが内蔵されている。
旅行終了後のアルバム作成、ホームページ作成に便利
・日本全国どこでも利用可能。
・レンタル料は一日当たり
携帯ナビ（通話料込み）
一台　三千二百円程度

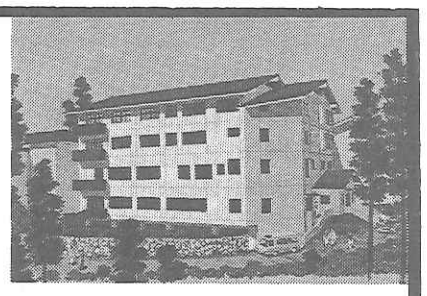
PHS位置確認システムは、すでに京都地区では『いまどこサービス』という名称でネットワークP&B（〇七五―七九一―四四五二）が、東京では位置検索サービスとしてエヌ・ビー・シー（〇三―三五八六―四七四四）が取り扱っており、今後、広島・長崎などに拡大するとしている。

又、現段階で一番多機能で進歩した「携帯ナビゲーション」は、『修学旅行ナビ』の商品名で日本衛星携帯販売株式会社（〇三―五四九四―五四四七）より今春から東京でサービス開始されたが、同社では、来春より京都でもサービスを開始すると言っている。

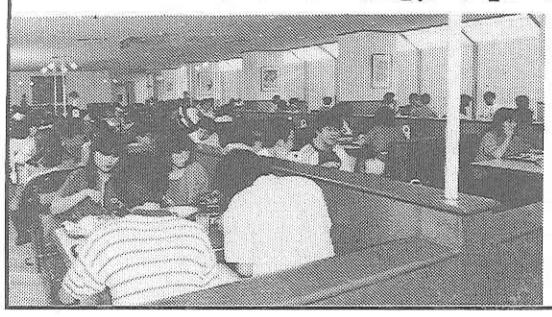
満天の星空・プラネタリウムアイランド伊豆大島
楽しい船の体験旅行
東京湾内洋上教室
特長
●貸切形式で、大型客船を他校との混乗もなく、廉価でご利用できます●東京湾の航行につき、雨天による欠航、船酔等の心配はありません●ご希望により、本船マストに校旗の掲揚、昼食等のご注文も受け承ります
料金
高校生（1名）2,610円から
小・中学生（1名）2,040円から
伊豆七島校外学習
特長
●東京から南へ120キロ、周囲60キロの「伊豆大島」は自然が豊富です●ご利用日、利用人員によっては貸切形式でも承ります●大島セミナーハウスは、広大な敷地の中に団体用宿泊施設、野外施設を廉価で使用できます。
料金（生徒1名あたり）
大島3泊4日行程（船中1泊含む）の場合約18,500円から
心にのこる船の旅
東海汽船
●お問い合わせは――
東海汽船営業課学校係☎03(3436)1144
又は貴校指定旅行代理店まで

楽しみながら歴史が体験できる大型テーマパーク。

株式会社時代村では、4つの時代村を体験学習ができる「礼節研修道場」と位置づけています。日本人が誇りとしていた美徳や作法。礼節がひとつの文化として確立した江戸時代に学ぼう、を合言葉に時代村全体を、目で見、肌で感じ、楽しく学べる施設として、教育にご利用いただけるよう、時代村を運営しています。
日光江戸村 0288(77)1777
登別伊達時代村 0143(83)3311
伊勢戦国時代村 0596(43)2300
加賀百万石時代村 0761(75)1777
東京案内所 03(5802)1777／大阪案内所 06(6394)4638／名古屋案内所 052(933)1085／札幌案内所 011(222)3080

座禅体験で
〝心、リフレッシュ!!〟
清潔、安全、快適、
安心のお宿

本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775―78―0047・0554
TELEX　5464―917
FAX　0775―79―5053

――修学旅行の楽しいお食事――
箱根彫刻の森美術館内
レストランコンポート

◇500名様迄、ご利用いただけます。
◇当レストランは、彫刻の森美術館内の施設ですので、入館を必要とします。
〒250-0407
神奈川県足柄下郡箱根町二の平1121
☎0460(2)2221（予約センター）

古代文化邪馬台国ルート
壱岐へ…

魏志倭人伝に一支国の名で記されている。
古代大陸交流の要としてクニを構えていた壱岐。
イルカとの共生をはじめ自然とのふれ合いが出来る絶好の教育旅行の場としてお薦めします。
壱岐教育旅行受入協議会事務局
九州郵船
TEL（092）281-0831
FAX（092）281-0444
URL http://www.mapion.co.jp